

20011.06.14

HOT HOT,100K 箱根湯元駅 舞浜公園 [大切な事をわすれてた]

スポーツエントリーの大会紹介欄でこの HOT-HOT,100K という記事を見つけて早速内容の調査の結果、50 人程度の小規模な大会であるが、今年で 6 回目の大会であることが分かった。更にはコースが気に入った。スタートは箱根湯本駅前で箱根駅伝復路のコースを品川の青物横町まで走り、そこから分岐してレインボーブリッジを渡り台場、辰巳、夢の島、葛西、そして浦安公園(東京ベイ浦安の発着点)までの 100 ㎞コースである。関門時間は 15 時間。途中、エイドとチェックポイントは 2 ヶ所、30 ㎞点の西湘バイパスのサザンビーチ、そして 2 回目は 60 ㎞点の横浜みなとみらい 5 の公園だけで、他はすべてコンビニ対応のジャーニーランタイプの大会である。7 月に磐梯高原のエントリーもしていたが迷わず前泊の予定も入れて申し込みを済ませた。結果的には 3 月 11 日の東日本大震災の影響でエントリー済みの 2 つの大会が中止となり今年最初の 100 ㎞クラスのウルトラの出場となった。

出発と宿泊

前日は仕事を早退し 15 時 05 分発の横浜行きのバスに乗る。横浜駅から小田原駅までは JR で移動し小田原からは京急登山電車で移動するルートで箱根湯元駅には 17 時 50 分に到着。

宿の位置がわからず事務局の亀卦川さんに電話する羽目になった。少し待って合流。同泊の浦安の I 氏と一緒に食事をしながら大会の歴史や特徴など、特に自分の調べた中でも難解だった藤沢陸橋越えと戸塚駅のスルー、そして高島町交差点の横断方法など多くの情報を収集することが出来た。食事は自分に勝たねばならぬとゲンを担ぎ『カツどん』を平らげた。

宿泊の旅館は徒歩で 10 分位の旅館街の奥まったところにある『箱根乃庵』で純和風の旅館、温泉は源泉掛け流しではあったが少し湯量が少ない、でも一緒に入浴した宿泊人と長話で大汗をかけた。入浴中にもう一人の同室者、千葉市の K さんが到着していた。簡単な自己紹介と少しの会話をして 20 時に就寝するが、この人は相当な経験の持ち主で昨年、夢の島から新潟までの『川の道』を完踏された方であり尊敬に値するツワモノである。

翌日のことをイメージすると中々眠りにつけず、結局 22 時頃に記憶が飛んで眠ってしまったが午前 2 時にはアラーム要らずで目が覚める。

6 月 4 日当日

いつも大会当日は目覚ましいらずで起床できるのは自分でも不思議なこと、まずは同室の方に迷惑にならないようにテーピング用具一式、洗面用具と朝食を持って部屋を出る。廊下の一角にソファもあり絶好のスペースで朝食のサンドイッチと野菜ジュースを飲みながらいつものテーピングとトイレ、洗顔を済まして時間を潰す。今日の集合は 3 時 30 分なので宿を 3 時に出発してコンビニに寄りスポーツ飲料を購入して余裕を持って箱根湯元駅前の広場に到着。そして荷物をお願いし開会式が始まり、本日の参加者 15 人程度で記念写真を写していただき、定刻の 4 時ジャストにスタートした。

今日は晴天、ウッスラと明るくなりつつある夜空に星が光る。スタート時の気温は 15 ぐらいか少し寒い。今回は半袖にアームウォーマーを嵌め手袋はいつもの赤を使用。スパッツは七部丈のものを着用、そして定番の小型リュックに・カメラ・携帯・IC センサー・その他、ランニング必需品を忍ば

せた。事務局から統一の緑のバンダナを着装してください。との事だったが郵送された時点であまりにも素敵な品物だったので記念に自宅に保存してしまい結局借用することになった。

4 時 箱根湯元駅をスタート

きれいな石畳の上を走るが、この畳が所々外れて遊んでいることを発見、自分の得意なテントウムシ(転倒虫)に襲われないように手持ちのライトを使って慎重にスタートした。



スタート直後に旧道に入り、まだ就寝中の家々の軒先をかすめて走る。まさに新撰組が吉良邸への仇討ちの走りを想像させる光景である。間もなく1号線に戻り箱根町を目指す。途中『風祭』などと洒落た町があり箱根の歴史を感じながら走る。

5.6 時 箱根本町通過 53 分

信号を渡り左方向に進む、ここには既にスタッフの方が先行して道案内をしてくれていた。元気に挨拶して走り続ける。この先、小田原市民会館前を右折し横浜、平塚方向と進む。歩道には小田原神輿をデザインしたマンホールがあり記念にパチリ……この先もパチリが続く。



8.6 時 酒匂川東

いよいよ夜空から太陽が顔を出し酒匂川にその光を映し出している。何度かこの川沿いを新松田駅方向から走ったことがあり、この川には思い出が残っている。早朝散歩の方もボツボツと見られるようになり張り合いが出てくる。ここからは4回ほど走ったR-1であるが何時もは左側を走っていたので僅か反対側の歩道を走っているだけでまた新たな光景を発見することが出来る。

11.2 時 親木橋交差点 1時間 11 分

ここは大井松田の入り口で横断歩道橋を渡る。

14.4 時 押し切り橋を通過し 16.6 時の二ノ宮駅入り口に到達。ここでもマイタウンNINOMIYAのデザインのマンホールをパチリ

20.3 時 西子磯は見逃し大磯駅南入り口に来てしまった。

ここからはR-1からR-134に分岐するのだが大会スタッフがしっかりと道案内をしてくれて大助かりだ。西湘バイパスに入ると花水川と相模川を渡る。最初の花水川の上では年配の男性から声が掛かり『何処までいらっしゃるのですか？』と問われ千葉のTDLと回答するや『それはそれはご苦労なコッタ』と励まされる。



25.8 時 平塚駅南入り口通過 2 時間 47 分

日陰が欲しくなり右側歩道を走った。駅入り口を少し過ぎたら歩道が消えて路側帯になってしまったが対向車に十分注意しながら直進する。その先には高浜台の大きな交差点があり先行者がこの歩道を横断して左方向に行くのが見えたが声が届かず……歩道の下を真っ直ぐ進み、遂に相模川に懸かるとても美しい 27.0 時の新湘南大橋の上で欄干に刻まれたエンブレムをパチリ。



橋を渡り真っ直ぐ進む、以前、左側に『サザンビーチ』の看板があったのでそれを目安に行くが見当たらず、大体このあたりだと右に並行しているビーチラインに入ったらドンピシャリで30⁺点のCPが目前にあった。

30⁺点のCP 到着 3時間20分

3時間30分を目標に到着したが、ほぼ予定通り。宿泊で同室だったKさんと同時到着となった。最初のエネルギーを補給。クリームパン、トマト、コーラを頂き背中のボトルにスポーツドリンクを補充して4分の休養で再スタートする。少しビーチラインを進むがタイルの凸凹が気になりすぐに表通りに出た。菱沼海岸交差点を過ぎ浜須加交差点の歩道橋を目指していたが、その手前の押しボタン信号が押されたので、この横断歩道を渡った(3時間46分)。そのまま左方向に進むと歩道橋を渡ったKさんより100メートルぐらい先行する形になった。



35.1⁺点浜見山交差点を通過 4時間00分

太陽はほぼ真上に来て容赦なく照りつける。こちらも負けずに汗を流して体温調節機能をフル回転させ代わりにスポーツドリンクを絶え間なく流し込む…このような闘いが続く。藤沢警察署の手前の民家で盆栽に散水していた方と目が合い、少しその水を分けてくださいと交渉の結果快く水道のホースを手渡してくれた。

この水道水を頭から被りスパッツの大腿部分にもタププリと沁み込ませお礼を言って走り出した。とっても気持ち良く進み待望??藤沢陸橋が目前に来た。



左側から入り、確か陸橋を右側で渡ると書いてあったのを復習して進むと答えがあった。高架の下には道路の反対に通じるトンネルがあったのだ……なーんだ、このことかと一人事を言いながら陸橋の上から線路をパチリ。

39.1⁺点藤沢橋 4時間19分

この下を流れている川の水の透明度に感動する。そして橋の20メートルほど下流には横から大きな川が高さ5メートルほどの上から勢いよく流れ落ち小さな滝を思わせる轟音を上げて流れ込んでいる。その様は正に圧巻であったので、ここでもパチリ。少し行くと歩道の上にあるマンホールの絵が変わり藤沢らしく藤の花のデザインに変わっていたので当然またパチリ。段差のある歩道を走りながら藤沢バイパスに出た。ここから側道に移り左手に国道1号を見ながら進む。43.1⁺点原宿交差点を5時間09分で通過したがその前に影取でコンビニのトイレをお借りして用を足しウイダーエネルギーとポカリを購入した。



44.8⁺点 バイパス分岐点 5時間32分

トイレ休憩で相当な時間をロスした。ここからまた旧道に入り下り坂へと進む、この時地図を確認している間に100⁺クラスの若い人に抜かれた。暫く後方にはKさんの姿が確認できる。みんな頑張っている。

46.6⁺点 難問である戸塚駅がきた 5時間57分

既にスタッフが方向を案内してくれ『渡ったら左です』とも教えてくれた。親切なコース誘導のお陰で迷うこともなく駅構内へ入る。例のごとく頭から水が欲しい、銀行のガードマンに案内されきれいなトイレに到着したがとても頭から水を被るようなマナーを逸脱した高位は出来ない。それ位に清潔な状態であり持参のバンダナで顔を洗い涼を貰って戻った。

さてここから左方向を目標に進むと階段を下りバスセンター前に来た。コースガイドを見たら正確に進んでいることが確認出来て安心。その時、後方からとても元気な人が声を掛けて抜き去って行った。

そして『開かずの踏み切り』からの1号線に合流して小さな橋を渡る。この川も、とても水がきれいであり立ち止まって川底を見ると30センチほどのウグイらしい魚がたくさん泳いでいる。本当にこの辺りの川は汚れが無く素晴らしい。恐らく丹沢系からの雪解け水の恩恵だろうと解釈する。

商店街に入った途端、対面してきたミニバイクが転倒し運転手が歩道の方に倒れてきた。とっさに飛び跳ねて衝突は免れたが運転手の男性は相当のご高齢の方で後方からバスがきたので左に寄ったらステップが縁石に当たって転倒したらしい。左足がバイクと縁石の間に挟まっていたので、まずはバイクを起こし、続いてご老人を起こして上げた。幸い怪我が無く丁寧にもお礼を言われまたバイクにまた跨ったのでお別れして自分も走り出した。

50.4 ㌔点 ここまではダラダラした登りを繰り返した。

東戸塚駅入り口を過ぎ、ここは、あの箱根往路の難関『権太坂』なのだ。しかし複路の権太坂は下りになるのである。頭上に狩場線の高架を眺め下っていくと54.6 ㌔の狩場インター入り口に来た。

100 ㌔クラスのゼッケン106番 浦安のKさんからこの歩道橋の進み方を教えてもらい左に渡り終える。

55.8 ㌔点 7時間15分

保土ヶ谷橋通過 水分補給に自販機で水を購入して一気に半分ぐらい飲んだ。

でここからは真っ直ぐ進むと左に保土ヶ谷駅があるのでそのまま進めば高島町交差点に出ると教えてもらい安心して前進できた。駅前のアーケード街は買い物客であふれて走られず車道に出ることも度々発生したが、まずは交通安全を確認しての走りに徹した。

根岸線のガードを潜り前方に見えるのは確かに高島町交差点である。

58.9 キロ点 高島町交差点だ

この大きな交差点は下に一般道、上には湾岸高速道路が走りその中間層に歩道橋があった。登り口には『↑HOT HOT』と黄色のチョークでサイン、このサイン通りに進むと事前に地図で勉強していた感覚よりも相当手前にランニングスタイルの大勢のランナーが集合しているのを確認、あれは目的の60 ㌔のチェックポイントであると理解するには容易であった。

集団の中から数人がこちらを見て大きく手を振っている。少数ではあるがスタッフが全員が統一の緑色のシャツを着ていたのですぐに分かった。

60 ㌔点 みなとみらいのCP到着 7時間50分

到着後ナンバーのチェックを終わり待望の腹ごしらえだ。パン、バナナ、オレンジ、コーラ、水を流し



込み手持ちの塩と胃腸薬、そして今回初めて痛み止めも一緒に服用した。

きれいな公園の中にあるトイレを借用したが和式のためにしゃがみ込む時の太腿は悲鳴を上げていた。【もしも聞こえたとしたら首を締め上げられた時に発するような凄い声だと思う】

トイレから戻るとほとんどの人がスタートした後で寂しく一人の再スターとなった。 20 分間の休憩

みなとみらいの公園を大回りして進んだら 5 人程の別グループが練習走をしていて声をかけられた。自分の下腹部に付けたゼッケンをチラ見して『頑張ってください…!』と激励もらった。

その先には総ガラス張りのビルがあり良く見たら富士ゼロックス R&D スクエアだ。この奥には横浜マリノスの本社ビルがあるはずだが確認できず。

突きあたりにある【とちのき通り】の交差点を右折し左奥に SOGO を眺めながら栄町交差点に進む。ここは国道 1 号線と 15 号線(第一京浜)の分岐点、ここは 2 年前に走った事もあるので迷わず 15 号線に沿って進む。

65.3 ㌦点 新子安駅入れ口 8 時間 49 分

子安駅近くのコンビニでゼッケン No104 の茨城県の O さんが腰かけて何かを食べていた。彼は良く食べる。今までも何度となく彼のコンビニ前で腰を落としての給食を見た。それに比べると自分の給食は彼の半分程度と思える。胃腸がとても頑丈な人だろうと勝手に想像する。

この後、彼との並走が始まった。彼は年齢 40 歳で走暦はそれほど長くはないがトライアスロンをしていて年に 2 回平均で鉄人レースに出場している凄い人だった。

もしかして独身かと思い尋ねたら二人のお子さんがいるとのこと……若くてウルトラにのめり込んでいる人を多く友人に持つが、その多くは未婚??の人が多い……なぜだろう???こんな楽しみを持つと結婚よりウルトラを愛するのだろうか……日本の将来が危ぶまれると心配するが……(余計なお世話か……)子安からは 20 分走って 5 分歩きのインターバルで進むことにした。

66.6 ㌦点 生麦駅前通過 9 時間 01 分 相当の遅れを自覚

京急電車にはこの後も面白い駅名が沢山登場して気持ちが晴れる。時刻は 13 時、丁度対岸の南房総では[きょなんひるずロードレース]が展開中で息子がハーフマラソンを走り、そろそろゴールのはずだと気が付きお嫁さんに電話しながら走る。しかしアクアラインで交通事故があり大会のスタートが 1 時間遅れたためにゴールは未だとのこと。彼も最近メキメキと力を付けて自分に接近してきたので手ごわい相手になってしまった。こんな状態で走っていると年配の二人組に抜かれてしまった。走りの具合は未だ相当元気な様だ、たぶん 70 ㌦の選手だったと思う。

68.6 ㌦点 鶴見駅入り口交差点 9 時間 26 分

またゼッケン 104 番の O さん発見、相変わらずコンビニの前で座り込んで何かを食べている。誘われるように自分もコンビニで水とガリガリ君を購入して水分補給に努めた。こんな暑いときのガリガリ君は最高の涼をくれるので大好きだ。



今度は『ゴム通り入り口』と言う駅名がでてきた。なんでゴム何だろうと勝手に想像すると長靴工場でもあったのかなー　ここは丁度 70^{キロ}ポイントである　9時間46分で通過、今日のコースと天候で大分遅れ気味のペースで進んでいる。

蒲田まで6^{キロ}の標識を見つけ東京都が接近している事を実感する。ここからOさんと完全並走状態となる。この先の競馬場前交差点を過ぎ、いよいよ東京都との境目の六郷橋を渡ることになる。

六郷橋の袂を登り、和船の形をしたモニュメントを見ながら橋を越えるが二人が共通して感じているのは水道で頭から水をタププリ被りたい・・・の願いをここで果たすことになった。橋の上から見た視野に野球場が入った。ここには絶対に水道があるはずだ、と決めて北詰の堤防からグラウンドの近くに降りて行き付近を捜すとしっかりと水道があるのを発見。二人で喜び合いながら野球をしている人に水道の借用許可を頂き心行くまで頭から冷水を浴びでスッキリさせてもらった。以前、一人で走った時は反対車線だったので橋を渡ってすぐに螺旋階段を下がるとそこには小公園があり水道があったのは確認していたが今回は反対歩道だったので土手の下までの移動となった。とは言えとてもリフレッシュできた一瞬であった。先を急がず自然に触れ見慣れぬ光景を楽しむ事の出来るウルトラは最高の思い出を作ってくれる。今回のHOT HOTの企画もジャーニーランの様でもあり楽しみ満載の企画だと感謝。

75.1^{キロ}点の京急蒲田駅前通過

続いて『梅屋敷駅前』が登場、11時間01分　またまたコンビニに二人で立ち寄り自分はサンドイッチとミカンプレンを食べるがOさんは、そうめんを食べている。彼曰く、このソーメンは消化も良く力が付くので常用しているとの事。

間もなく77.0^{キロ}点の大森警察署を通過した　11時間07分　ここから青物横町の遠い事には閉口。自分の感覚では2-3^{キロ}と思って居たが何処まで進んでも標識が見えない。少し歩きの間に後方から若いカップルが追い付いてきた。彼らは40^{キロ}の選手で相当疲れてたので台場に着いたら電車でワープしようと言っている。こんな会話をしながらやっと青物横町。

81.3^{キロ}　11時間46分　青物横町を過ぎ技術専門学校の校門を確認して左折する。天王洲アイル83.1^{キロ}このあたりはモノレール駅の下の素晴らしくきれいな歩道を進む、良く見ると震災時の揺れで発生したのかタイルが所々剥がれている。前方から自分と同年輩の方がジョギングしながら寄ってきて『浦安までもうすぐだよ・・・頑張っ！』と声をかけられる。こんな後半の疲れ切っている時にもらう言葉はとても元気が出る。その後レインボーブリッジが右手の方向に見えてきたが中々登り口のプロムナードが見えない。4月に仲間と観光走で芝離宮方向から登ったが、ビルも少なく相当前から確認出来たが、こちらの方向には多くのビルがあり距離感がつかめない。橋の姿を確認してからとても長い距離を走った様な気がする。やっとのことで85.3^{キロ}のプロムナードに到着。きれいなトイレと水道を借用してまたまた頭の洗濯をしてノースコース行きのエレベータで7階に登上する。Oさんは初めてだと大喜び。二人で互いに写真を写して進む。以前はこのルートは自転車の進入が禁止だったが乗らない事を条件に後輪にロック装置を付けて押すことを前提に自転車も往来していた。

遂にレインボーを越えて88.0^{キロ}点のシーリア前に到着

Oさんは近くにあった100円ローソンに飛び込んだので自分も後を追う、そして店内でOさん推奨

のソーメンセットを購入し店の前に座りこんで食べた。『なんと美味しい！』今まで 60 分のCPで自前の塩をオレンジにつけて食べたのが唯一の塩分補充であった。行儀は別として、ぶっ掛けのスー
プの美味いこと…全てを飲み干した途端に体が軽くなった気がした…。

実は青物横丁前で出会った若いカップルの言葉がさっきまでずっと脳裏に引っかかっていた。
つまりは台場からワープしようと、もう一人の自分が決定付けようとしていたのである。

“ばか者！おまえは何をしにここに来たのだ！”と…天から巨大なゲンコツが頭に直撃したショック
を感じた。自分の陰に潜む、もう一人の自分が安易な方向へと導くのである。

ウルトラマラソンの後半は常にこの綱引きだ。奴に負けたら後悔しか残らない。いかなることがあっ
てもあの野郎には勝たねばならない。

今回は並走していたOさんが『もう少し走って見ます…』と言った、この一言が陰の自分の呪縛を
払い退け我に返らせてくれた。

あの時Oさんがいなければ、もしかして奴の思う壺に嵌り、今は後悔の渦中に沈んでいたと思う。
Oさんに大大感謝だ。

残りの距離はたかが 12 分の 時間は 2 時間

我を取り戻して走り出した。海浜公園入り口から左折し湾岸高速の下をただただ走り続ける。
さっきまでのくじけた俺ではない。ゴールを目指してしっかり走り続けているのが確認出来る。
有明、東雲(しのめ)、を過ぎた。

92.1 分の点 辰巳 13 時間 46 分

台場の長時間休憩もありこの 11 分を 120 分もかかってしまった。
辰巳ジャンクション下、公園の入り口にウサギともイノシシともつかない
巨大なモニュメントをパチリ。さくら並木の水のみ場は探すことなく
前方に進む。遂に見覚えのある夢の島競技場が見えた。新木場前
の大きな交差点を越え、2 年前の深夜走の時に休憩しようと立ち寄
り蚊の大群に襲われながら退散した清掃工場の公園を眺めながら、
遂に荒川に懸かる荒川湾岸橋に来た。



95.5 分の点 ぐらいの点である 14 時間 00 分

高い大きな橋の頂上は風もありとても気持ちが良い。渡り終えて下るが 30 メートルぐらいの折り返し
の下り坂でとても損をした気持ちにもなる。葛西臨海公園前ぐらいでスタッフの方がジュースを用意
して待っていてくれた。ここまでコンビニに寄ることも無く、ただひたすらゴールを目指して走り続け
て来た自分が嘘のようだ。そしてもう、あの呪縛は完全消滅した。

98 分の点 江戸川河口に掛かる舞浜大橋

最後の橋を記念にパチリ。折り返して歩道を下りTDLの駐車場行
きの道路から分かれ一路舞浜駅前方向からゴールの舞浜運動公
園に向う。



TDLの園内からはイベントの音が大きく響き帰りのお客さんも大勢、駅の方角に移動している。
やっとゴールが見えた。交差点の正面には少し薄暗くはなっているがしっかりとゴールテープを張
ってスタッフの皆さんがゴールを設置してしてくれた。

100 分のゴール 14 時間 44 分 35 秒

起死回生を導いてくれたOさんとガッツの同時ゴールを果たし、楽しい箱根路RUNが終了した。
当然ツーショットのパチリも忘れずに確保。
ゴール後、体育間のシャワーをお借りしてスッキリして19時50分の電車で帰宅、自宅近くの焼き鳥や(亀ちゃん)で熱燗2合を頂き帰宅。
今回のウルトラでも久々にもう一人の自分と出会うことが出来、同時に真の自分を見出すこともできた大切な100^{キロ}であった。
こんな自分しか味わうことが出来ない、とても贅沢な一日半を過ごすことが出来た。
HOT HOTの事務局の皆さま、起死回生をくれたOさま、そして我儘に行動する親父に協力してくれる大切な家族のみなさんありがとうございました。



完

2011.06.17 SYOU